

# 過酷な労働 1割が死亡



福林教諭

終戦までに収容人数の10%に当たる約七十人の捕虜が死亡したという。

終戦後、英国に帰国した捕虜が「戦争が長引いていたら、もう一回、大江山で冬を過ごすことはできなかっただろう」と回想する記事も見つけた。

## 精錬所や鉸山で

### 米公文書や証言で判明

第二次世界大戦中、連合軍捕虜を収容していた「大江山分所」(現・宮津市須津)とその本所である初期の「大阪捕虜収容所」の実態を、府立向陽高校教諭の福林徹さん(50)＝亀岡市在住＝らのグループがこのほど報告書にまとめた。終戦後の書類焼却などでこれまで実態はほとんど知られていなかったが、同グループによって、当時の大江山分所には主に米國、カナダ、英國など約七百人の連合軍捕虜が収容されており、過酷な労働などで終戦までに捕虜の約一割が死亡していた事実などが初めて明らかになった。

福林さんらは国立国会図書館に所蔵されている米國調査結果によると、大江の二箱分の弁当という

公文書「GHQ(連合軍)山分所は終戦二年前の一九四三年に京都府与謝郡吉津

総司令部 法務局調査部報 四三年に京都府与謝郡吉津 状況が続き栄養失調で倒れ

告」などを調べ、現地調査 村(現・宮津市)に建設さ

る捕虜も少なくなかった。 捕虜たちは隣接する岩

や当時大江山分所や大阪捕 れ、捕虜たちは隣接する岩

虜収容所に勤務していた人 滝口の精錬所や大江山の二

の窮屈な部屋に寝起きさせられる、衛生状態も悪かったことからも多発、話している。

## 「大江山分所」の 連 合 軍 捕 虜

高校教諭らのグループが報告書



手前が大阪捕虜収容所大江山分所が置かれていたところ(宮津市須津)